

2016年度（第2回）
学生生活調査報告書

公立大学法人

神戸市外国語大学

〈注記〉

1. 本調査は第2回目の調査である。本報告書の作成にあたっては単純集計を基礎として、必要に応じて第1回目調査との比較を行っている。
2. 本報告書におけるコースの定義
カリキュラムの規定上、国際関係学科の学生には国際コミュニケーションコース (ICC) を除き、コース選択が認められていない。本報告書では、国際関係学科のコースは、国際コミュニケーションコース (ICC) と国際関係学科 (コース選択なし) として表記する。
3. 以下の規則に従い集計している。
 - ① 各集計結果の百分率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しているため、合計が100%にならない項目がある。
 - ② 平均は、特に断りがある場合を除き無回答・無効回答を除いた回答を対象とする。
4. 各項目の満足度を聞いた質問で、肯定的評価の比率とは「満足」「やや満足」を合計したものであり、否定的評価の比率とは「不満」「やや不満」の合計である。

はじめに

本調査は、本学学生の生活状況や意識を把握し、学生支援の基礎資料とすることを目的として学生支援部会が3年ごとに実施しているものである。今回は2013年11月に実施した第1回調査に続く、第2回の調査(2016年11月実施)である。

設問は合計50項目であり、そこから学生生活全般の満足度に加えて、個々の取組等についても把握できるように設計した。具体的には、課外活動、留学、就職活動等である。また、カリキュラムについても設問を設けている。

この調査により、本学の学生生活の全体像が明らかになると共に、今後のカリキュラム構成等の一助になれば幸いである。

最後に、学生生活調査の実施に協力いただいた学生諸氏ならびに教職員、その他調査の関係者各位に厚くお礼申し上げます。

2017年 8月

学生支援部長 田中 悟

目 次

はじめに	2
1 調査の概要	4
1.1 目的	4
1.2 調査方法	4
1.3 基本属性	9
2 調査結果	11
2.1 学生生活全体の状況	11
2.1.1 大学生活の考え方	11
2.1.2 学生生活の(主観的)成果	15
2.2 個別活動(正課教育と学習環境)	16
2.2.1 正課教育	16
2.2.2 図書館	16
2.2.3 学習のための施設(教室、自習スペース等)の満足度	17
2.2.4 情報機器	17
2.2.5 教員との交流	18
2.3 個別活動(課外活動)	18
2.3.1 部活・サークル活動、ボランティア活動、語劇の状況	18
2.3.2 ボランティア活動の状況	20
2.4 個別活動(留学)	21
2.4.1 留学の状況	21
2.4.2 留学の形態	22
2.5 個別活動(TOEIC、就職活動について)	24
2.5.1 TOEIC	24
2.5.2 1、2、3年生の卒業後に希望する進路	25
2.6 個別活動(悩み)	26
2.7 大学への要望・期待について	27

1 調査の概要

1.1 目的

神戸市外国語大学では中期計画を定め、学生支援体制の充実を図っているところである。この調査は、学生の生活状況や意識などを把握し、学生支援のための基礎資料とすることを目的として実施した。今回は2013年度(第1回)に続く第2回目の調査である。

1.2 調査方法

1) 調査実施期間

2016年11月1日(火)~11月21日(月)

2) 調査対象

調査対象者は、2016年11月現在の本学学部・第2部在籍する全学生1,884人(休学者を除く)である。

3) 実施方法

- 1学年と2学年

1学年と2学年については、専攻語学の授業において、担当教員が「学生生活調査票」と封入封筒を配布・回収した。

- 3学年と4学年

3学年と4学年については、ゼミ(研究指導、卒業論文指導)の授業において、担当教員が「学生生活調査票」と封入封筒を配布・回収した。

4) 回収数・回収率

上記調査期間中の回収数は1,236人分で、全体の回収率は65.6%であった。第1回調査(回収数1,124人、回収率60.7%)と比較すると、112人の回収増であり、回収率も4.9%の上昇である。

表1・表2・表3はそれぞれ学部、学科・学年、コースの回収率である。回収率は全般的に良好である。学部生1,505人中971人(回収率64.5%)、第2部学生379人中259人(回収率68.3%)である。コース別にみても、ロシア学科語学文学コース、国際関係学科国際コミュニケーションコースを除き、回収率は50%以上である。

表1: 学生生活調査実施状況一覧

区分		1	2	3年	4年	無回答	合計
学部計	対象数	354	385	402	364	—	1,505
	回収数	256	201	268	246	—	971
	回収率	72.3%	52.2%	66.7%	67.6%	—	64.5%
第2部計	対象数	93	89	91	106	—	379
	回収数	68	57	66	68	—	259
	回収率	73.1%	64.0%	72.5%	64.2%	—	68.3%
全体	対象数	447	474	493	470	—	1,884
	回収数	324	258	334	314	6	1,236
	回収率	72.5%	54.4%	67.7%	66.8%	—	65.6%

※対象学生は2016年11月現在。括弧内は前回調査時の数値。

表 2: 学生生活調査実施状況一覧 (学科・学年)

学科		1年	2年	3年	4年	無回答	合計
英米	対象数	141	148	170	141		600
	回収数	107	71	122	88		388
	回収率	75.9%	48.0%	71.8%	62.4%		64.7%
ロシア	対象数	43	47	45	40		175
	回収数	24	24	26	18		92
	回収率	55.8%	51.1%	57.8%	45.0%		52.6%
中国	対象数	54	51	51	50		206
	回収数	32	18	33	40		123
	回収率	59.3%	35.3%	64.7%	80.0%		59.7%
イスパニア	対象数	44	48	44	44		180
	回収数	40	21	23	33		117
	回収率	90.9%	43.8%	52.3%	75.0%		65.0%
国際関係	対象数	72	91	92	89		344
	回収数	53	67	64	67		251
	回収率	73.6%	73.6%	69.6%	75.3%		73.0%
学部計	対象数	354	385	402	364		1505
	回収数	256	201	268	246		971
	回収率	72.3%	52.2%	66.7%	67.6%		64.5%
第2部英米学科	対象数	93	89	91	106		379
	回収数	68	57	66	68		259
	回収率	73.1%	64.0%	72.5%	64.2%		68.3%
学科無回答・無効	回収数					6	
合計	対象数	447	474	493	470		1884
	回収数	324	258	334	314	6	1236
	回収率	72.5%	54.4%	67.7%	66.8%		65.6%

表 3: 学生生活調査実施状況一覧 (学年・学科・コース)

学科	コース		3 学年	4 学年	合計
英 米	語学文学	学生数	56	50	106
		回収数	42	26	68
		回収率	75.0%	52.0%	64.2%
	法経商	学生数	36	30	66
		回収数	29	26	55
		回収率	80.6%	86.7%	83.3%
	総合文化	学生数	62	48	110
		回収数	43	26	69
		回収率	69.4%	54.2%	62.7%
	国際コミュニケーション	学生数	16	13	29
		回収数	8	9	17
		回収率	50.0%	69.2%	58.6%
	無回答・無効	回収数	0	1	1
	学科計	学生数	170	141	311
		回収数	122	88	210
回収率		71.8%	62.4%	67.5%	
ロ シア	語学文学	学生数	3	18	21
		回収数	1	7	8
		回収率	33.3%	38.9%	38.1%
	法経商	学生数	15	11	26
		回収数	9	6	15
		回収率	60.0%	54.5%	57.7%
	総合文化	学生数	27	11	38
		回収数	16	5	21
		回収率	59.3%	45.5%	55.3%
	国際コミュニケーション	学生数	0	0	0
		回収数	0	0	0
		回収率	-	-	-
	無回答・無効	回収数	0	0	0
	学科計	学生数	45	40	85
		回収数	26	18	44
回収率		57.8%	45.0%	51.8%	

学科	コース		3 学年	4 学年	合計
中国	語学文学	学生数	15	17	32
		回収数	7	12	19
		回収率	46.7%	70.6%	59.4%
	法経商	学生数	15	13	28
		回収数	9	11	20
		回収率	60.0%	84.6%	71.4%
	総合文化	学生数	19	20	39
		回収数	15	16	31
		回収率	78.9%	80.0%	79.5%
	国際コミュニケーション	学生数	2	0	2
		回収数	1	0	1
		回収率	50.0%	-	50.0%
無回答・無効	回収数	1	1	2	
学科計	学生数	51	50	101	
	回収数	33	40	73	
	回収率	64.7%	80.0%	72.3%	
イスパニア	語学文学	学生数	29	27	56
		回収数	14	23	37
		回収率	48.3%	85.2%	66.1%
	法経商	学生数	2	6	8
		回収数	1	3	4
		回収率	50.0%	50.0%	50.0%
	総合文化	学生数	11	9	20
		回収数	7	5	12
		回収率	63.6%	55.6%	60.0%
	国際コミュニケーション	学生数	2	2	4
		回収数	1	2	3
		回収率	50.0%	100.0%	75.0%
無回答・無効	回収数	0	0	0	
学科計	学生数	44	44	88	
	回収数	23	33	56	
	回収率	52.3%	75.0%	63.6%	

学科	コース		3 学年	4 学年	合計
国際関係	国際コミュニケーション	学生数	3	5	8
		回収数	0	0	0
		回収率	0%	0%	0%
	コース選択なし	学生数	89	84	173
		回収数	63	62	125
		回収率	70.8%	73.8%	72.3%
	無回答・無効	回収数	1	5	6
	学科計	学生数	92	89	181
		回収数	64	67	131
		回収率	69.6%	75.3%	72.4%
学部計		学生数	402	364	766
		回収数	268	246	514
		回収率	66.7%	67.6%	67.1%
第2部英米	英語学・英語研究	学生数	24	25	49
		回収数	17	19	36
		回収率	70.8%	76.0%	73.5%
	英語圏文化・文学	学生数	30	43	73
		回収数	19	24	43
		回収率	63.3%	55.8%	58.9%
	法経商	学生数	36	37	73
		回収数	27	23	50
		回収率	75.0%	62.2%	68.5%
	無回答・無効	回収数	3	2	5
第2部計		学生数	91	106	197
		回収数	66	68	134
		回収率	72.5%	64.2%	68.0%
合計		学生数	493	470	963
		回収数	334	314	648
		回収率	67.7%	66.8%	67.3%

1.3 基本属性

回答数による男女比は男性 29.9%、女性 69.9%となっている。これは在籍学生の男女(男子 33.7%、女子 66.3%)に比べると、女性の回答率が高いものの、その差は3ポイント程度であり、実態と概ね一致している。

なお、学科・コースごとに回答数が異なっており、以下の調査結果について、回答数が多い学科・コースの影響が強くなる点には注意が必要である。学科では英米学科・国際関係学科・第2部英米学科が多くなっており(表4)、コースでは法経商コース・語学文学コース・総合文化コースの割合が高い(表5)。

図1: 性別

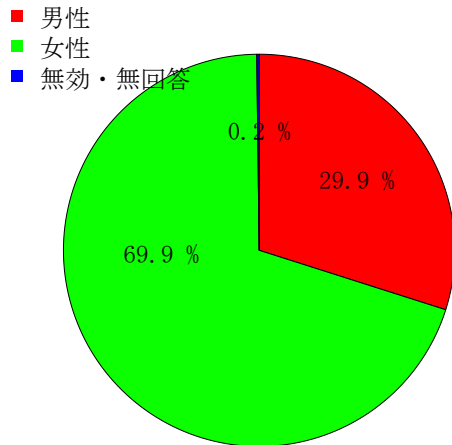


表4: 学科

所属学科	回答数	割合
英米	388	31.4%
ロシア	92	7.4%
中国	123	10.0%
イスパニア	117	9.5%
国際関係	251	20.3%
第2部英米	259	21.0%
無回答・無効	6	0.5%
合計	1,236	100.0

表5: 所属コース

所属コース	回答数	割合	3 学年	4 学年
語学文学	135	20.8	65	70
英語学・英語研究	36	5.5	17	19
英語圏文化・文学	44	6.8	19	25
法経商	146	22.5	77	69
総合文化	134	20.6	81	53
国際コミュニケーション	25	3.9	10	15
国際関係学科(コース選択なし)	126	19.4	63	63
無回答・無効	3	0.5	3	0
合計	649	100.0	335	314

年齢・居住形態・入試形態は図2～図4のとおりである。

- 19歳、21歳の回答者が相対的に多い。
- 居住形態は自宅48.5%・自宅外51.0%であり、第1回調査時と大差ない。
- 入学時の入試形態は「一般入試(第1志望)」(62.6%)が最も高く、次いで「一般入試(第1志望以外)」(21.1%)となっている。第1回調査時と比較すると、第1志望以外が減少し、第1志望入学が増加している。

図2: 年齢構成

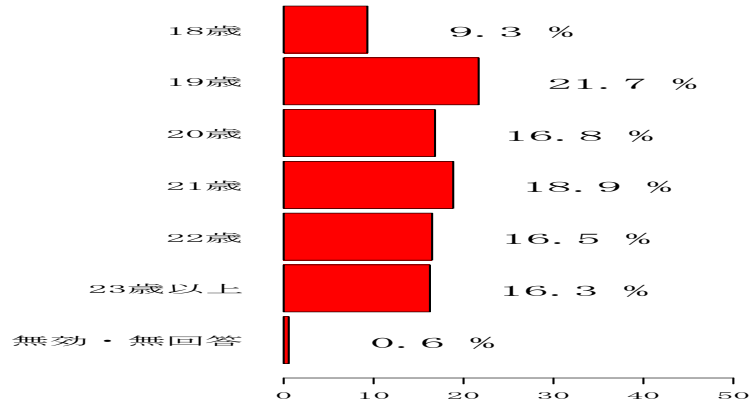


図3: 居住形態

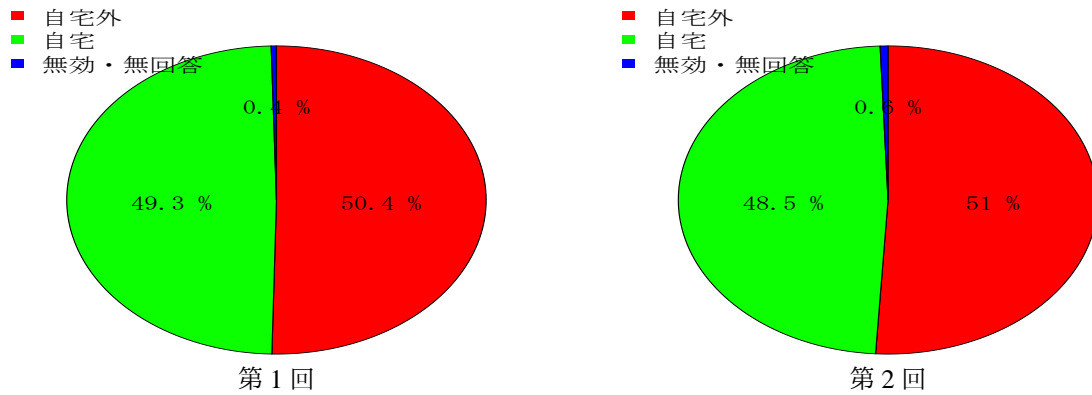
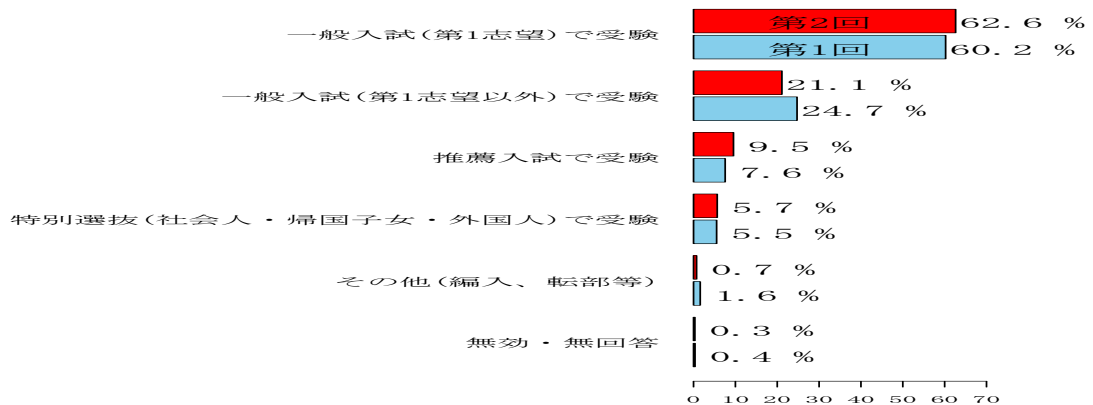


図4: 入試形態



2 調査結果

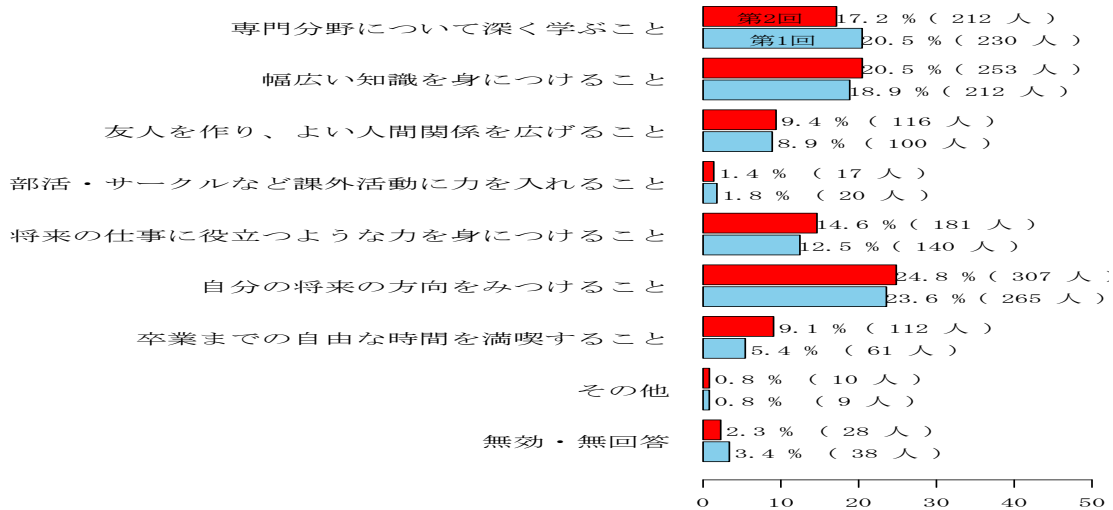
2.1 学生生活全体の状況

2.1.1 大学生活の考え方

1) 大学生活の考え方

「現在、大学生活の中で最も大切だと思っていることは何か」に対する回答状況は、回答率の高い上位3項目は、「自分の将来の方向を見つけること」24.8%(307人)、「幅広い知識を身につけること」20.5%(253人)、「専門分野について深く学ぶこと」17.2%(212人)である。これらの項目は第1回調査時と変わっていない。

図 5: 大学生活の考え方



2) 経済状況

学生本人の月間収入¹の平均は、15万2千円である。そのうち、自宅から通学している学生は14万5千円、自宅外から通学している学生は15万9千円となっている。自宅外生は自宅生よりも1万4千円収入が多い。また、学生の就労状況は、「パート・アルバイト」(78.9%)と「就労していない」(15.9%)で全体の大部分を占めている。

図 6: 月間収入合計 (平均)

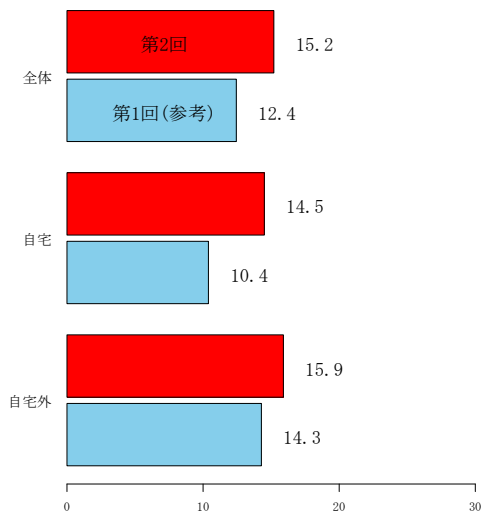
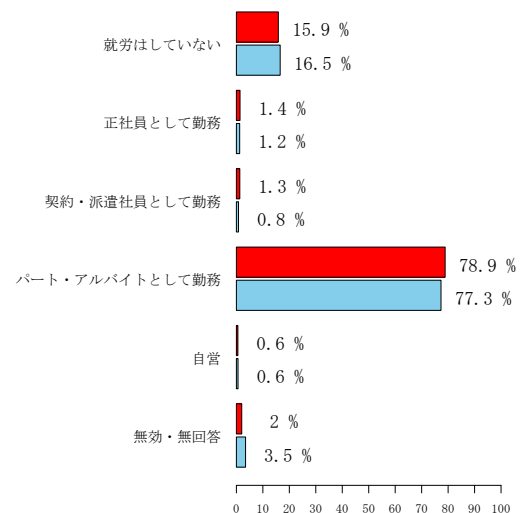


図 7: 学生本人の就労状況



¹今回の調査では月間収入を質問している。第1回調査時は年間収入を尋ねていたため、直接比較することは難しい。よって、比較検証は行わない。なお、図6の第1回時の月間収入は年間収入を12で割ることで算出している。

3) 生活時間

平均的1日像を平日と土日祝に分けて調査した。平均時間の結果は図8、図9の通りである。大きな差があるのは、勉強している時間が平日は土日祝の2倍弱となっている点である。ただこの点は、「勉強している時間」の中には授業時間が含まれており、当然の結果である。したがって、平均値を比較した結果は、平日と土日祝で生活時間に大差はないということができよう。²

以上は、平均値の値だけを比較したものである。分布を比較したものが図10から図15である。以下、3点だけ述べておく。

- I. 部活・サークル活動の時間は平日、土日祝ともに平均値で見れば、ほとんど同じである。しかし、土日祝の方が活動時間にばらつきがある。
- II. 就職活動時間は、平日、土日祝ともに平均値・ばらつきのいずれでみてもほとんど同じである。
- III. 娯楽・交友と睡眠は、土日祝の方が長い傾向にある。

図8: 1日の生活時間(平日)

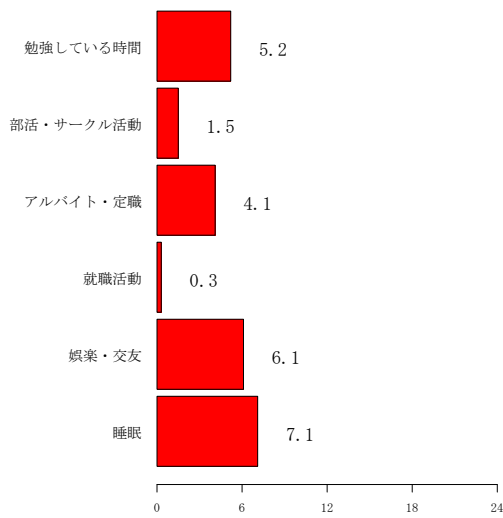
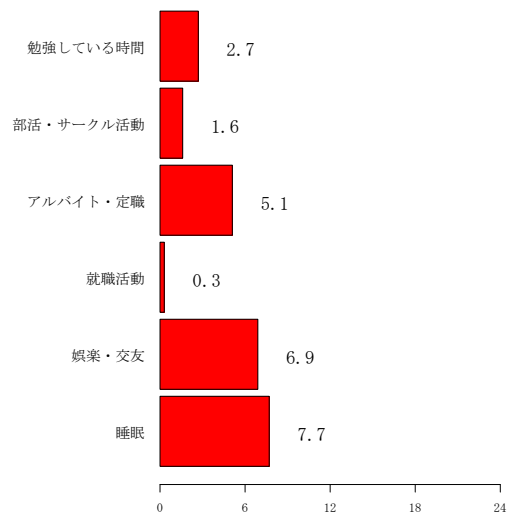
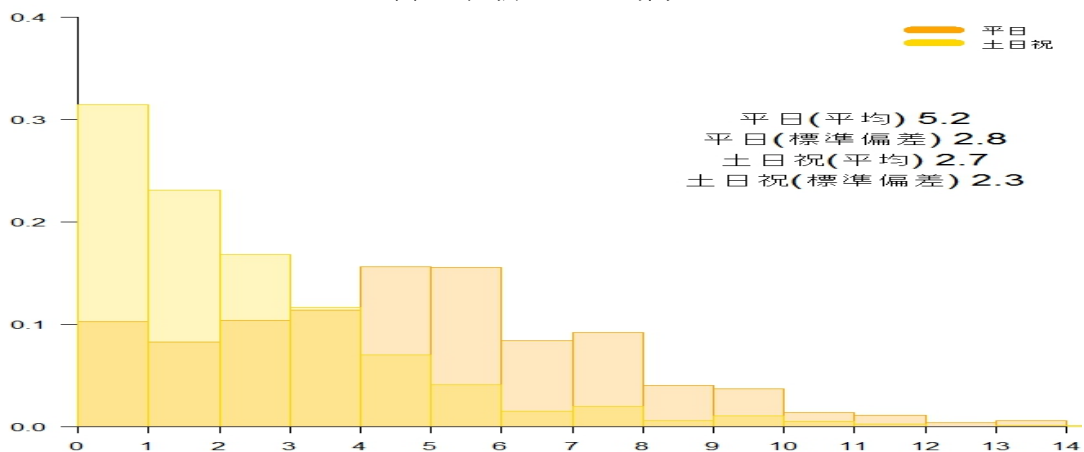


図9: 1日の生活時間(土日祝)



単位：時間

図10: 勉強している時間



²厳密には、平均値の差の検定を行う必要がある。

図 11: 部活・サークル活動

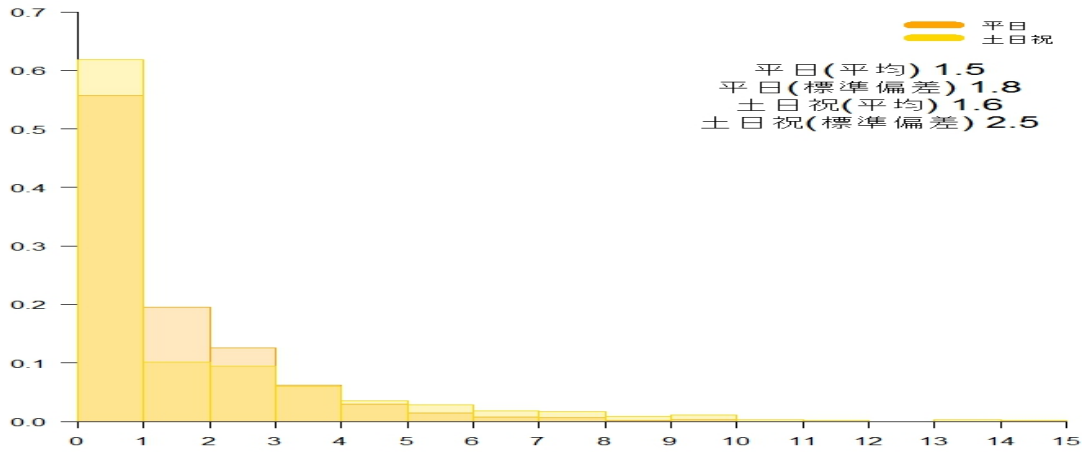


図 12: アルバイト・定職

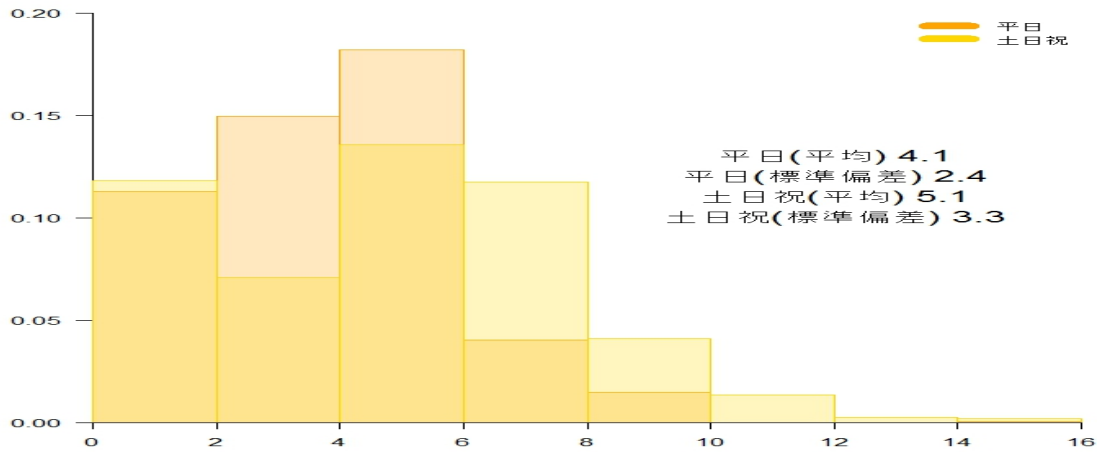


図 13: 就職活動

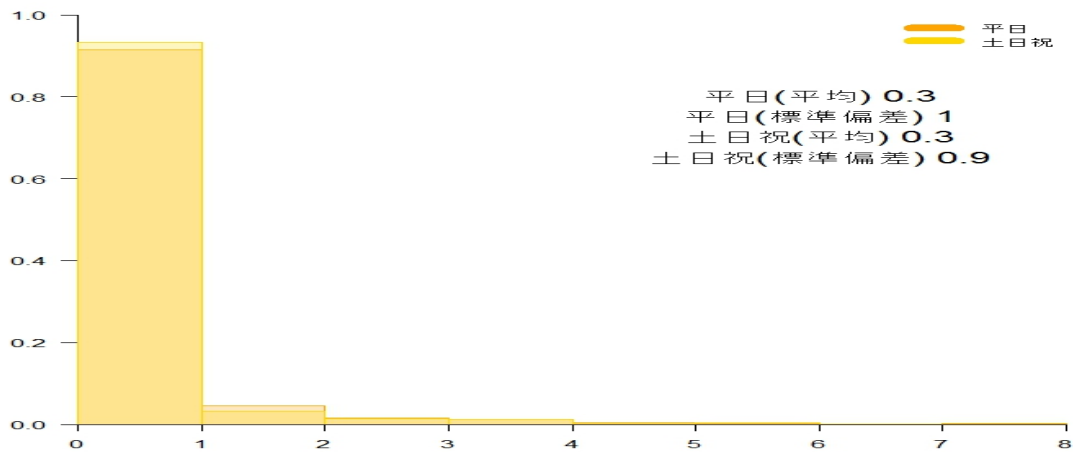


图 14: 娛樂・交友

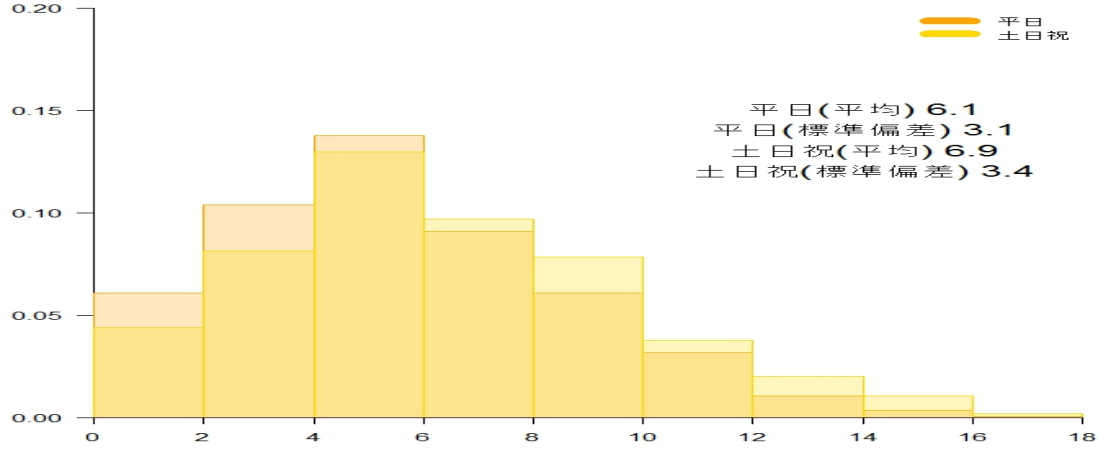
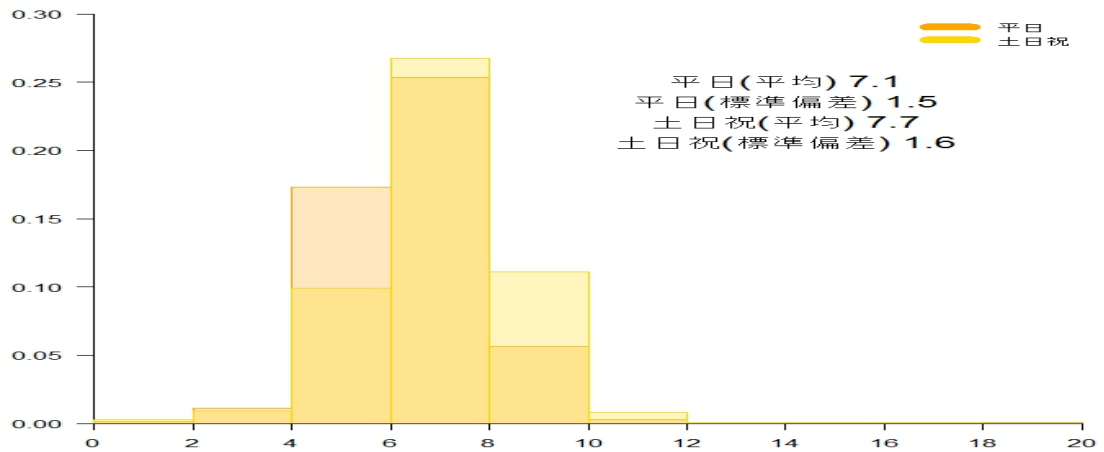


图 15: 睡眠



2.1.2 学生生活の(主観的)成果

大学生生活でこれまで身についたと実感できることについて、項目ごとにどの程度当てはまっているかを質問した。図 16 の数字は「そう思う」と「ややそう思う」の合計である。

全学年でみた場合、回答者の過半数以上が「身についた」と答えた項目は、

「A 外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」	(70.6%)
「B 専門分野での知識・理解」	(67.0%)
「C 幅広い知識ともの見方」	(65.5%)
「G ものごとを分析的・批判的に考える力」	(50.9%)

である。一方、「身についた」と答えた人が過半数を下回った項目は、

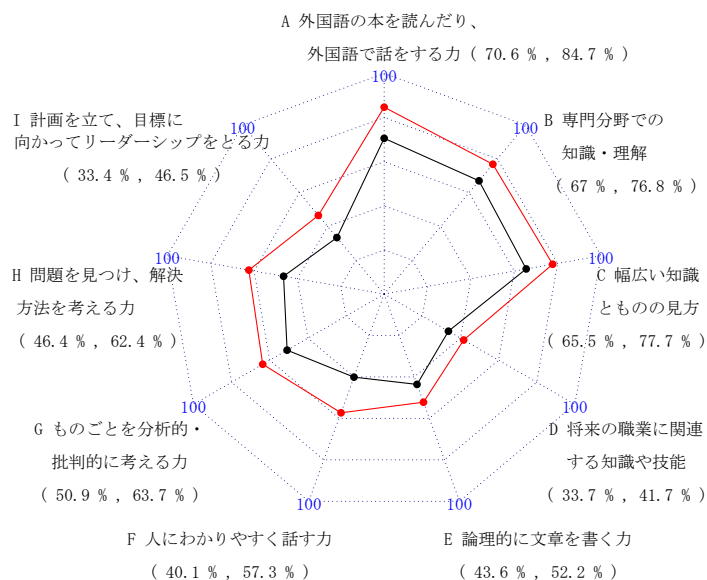
「D 将来の職業に関連する知識や技能」	(33.7%)
「E 論理的に文章を書く力」	(43.6%)
「F 人にわかりやすく話す力」	(40.1%)
「H 問題を見つけ、解決方法を考える力」	(46.4%)
「I 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」	(33.4%)

である。

全学年ではなく、4年生に限定してみた場合、いずれの項目も値が上昇している。全学年と比べて10%以上値が大きくなっている項目は下記の通りである。

「A 外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」	(84.7%)
「C 幅広い知識ともの見方」	(77.7%)
「F 人にわかりやすく話す力」	(57.3%)
「G ものごとを分析的・批判的に考える力」	(50.9%)
「H 問題を見つけ、解決方法を考える力」	(62.4%)
「I 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」	(46.5%)

図 16: 学生生活の(主観的)成果



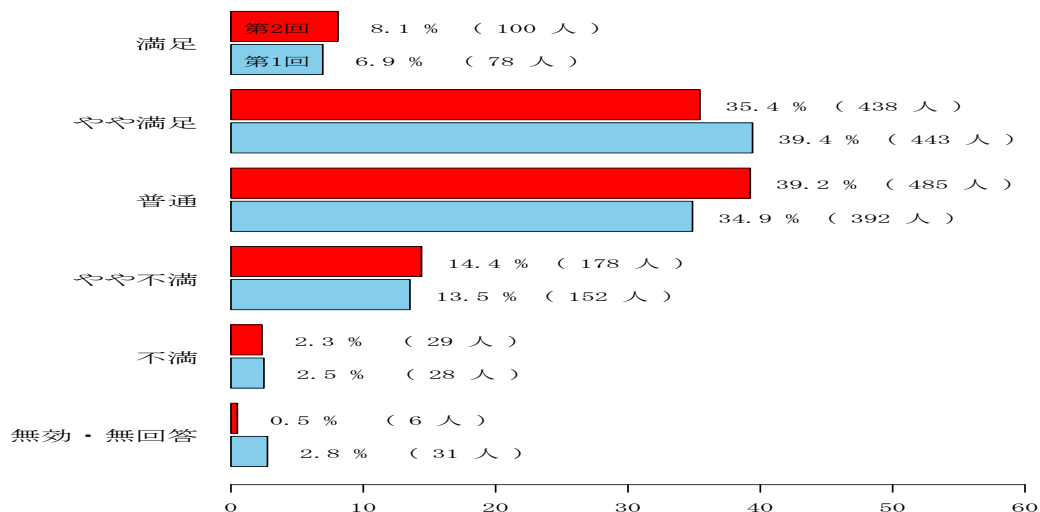
黒線：全体、赤線：4年生

2.2 個別活動(正課教育と学習環境)

2.2.1 正課教育

授業を全般的に評価すると、肯定的評価(「満足」と「やや満足」の合計)は43.5%、否定的評価(「不満」と「やや不満」の合計)は16.7%である。これは第1回調査での肯定的評価は46.3%、否定的評価は16.0%であったので悪化している。

図 17: 全科目の総合評価



2.2.2 図書館

図書館に対する評価では、肯定的評価が70.4%、否定的評価が9.9%である。利用頻度は、回答が多い順に、「週に1~2回」(52.6%)、「月に1~2回」(20.7%)、「ほとんど毎日」(16.2%)である。利用しない理由を訊いた設問では、「利用する時間がない」(34.5%)、「インターネットで情報を入手している」(26.1%)、「必要な資料がない」(15.1%)の順になっている。

第1回調査の結果と比較した場合、満足度は上がっているものの、利用状況は下がっている。また、利用しない理由として「必要な資料がない」の割合が上昇している。

図 18: 図書館に対する評価

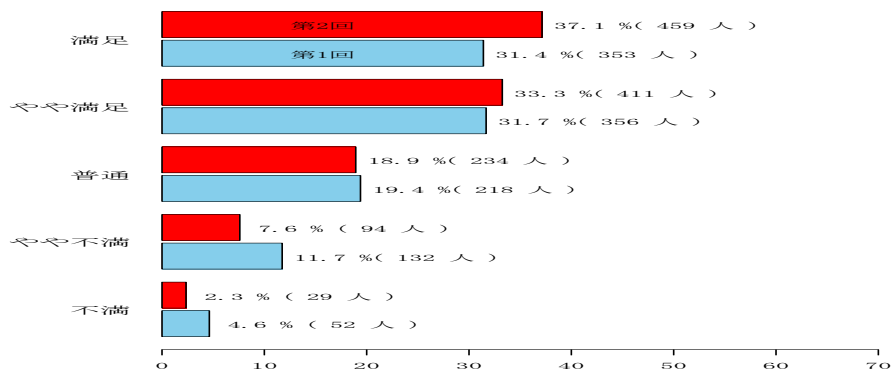


図 19: 図書館の利用状況

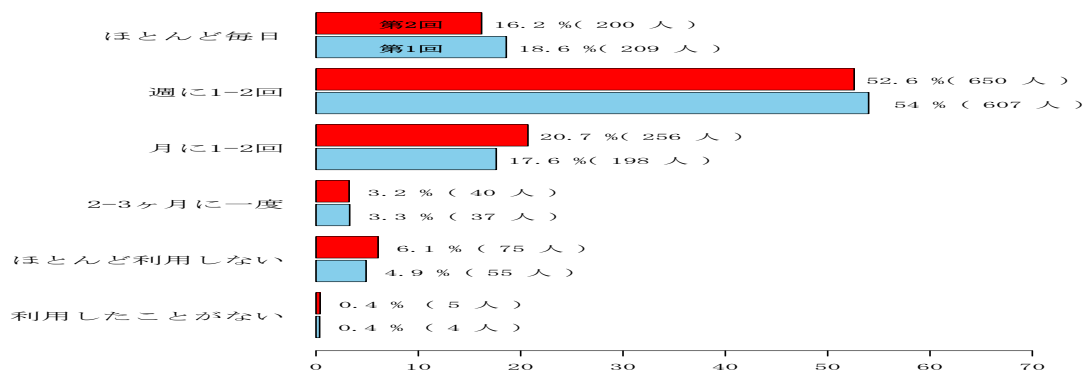
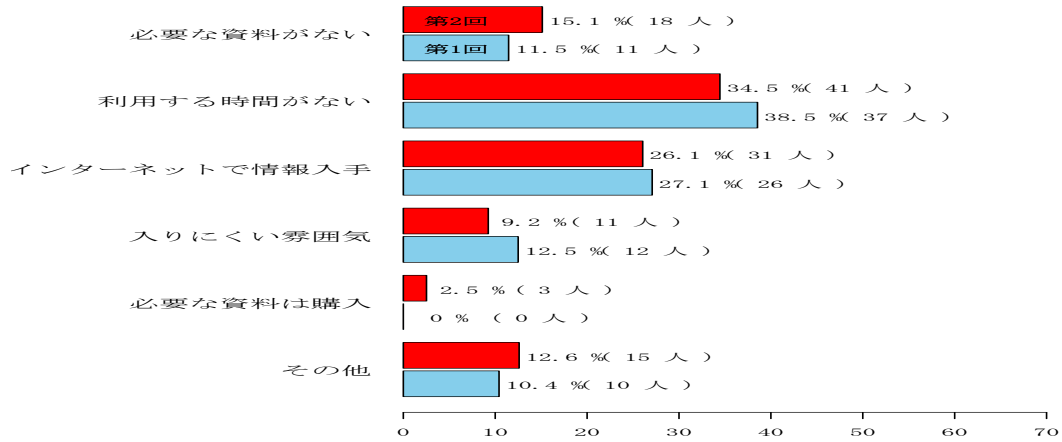


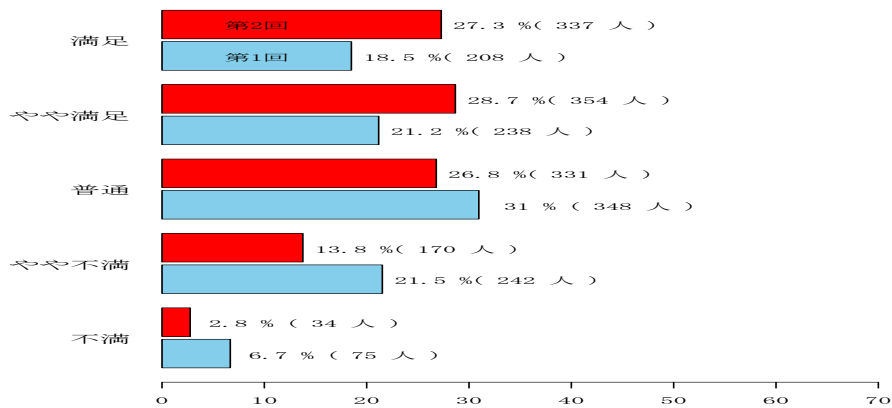
図 20: 図書館を利用しない理由



2.2.3 学習のための施設 (教室、自習スペース等) の満足度

学習のための施設に対する評価では、肯定的評価が 56.0%、否定的評価が 16.6%である。第 1 回調査時の肯定的評価 39.7%、否定的評価 28.2%と比較して大きく改善している。

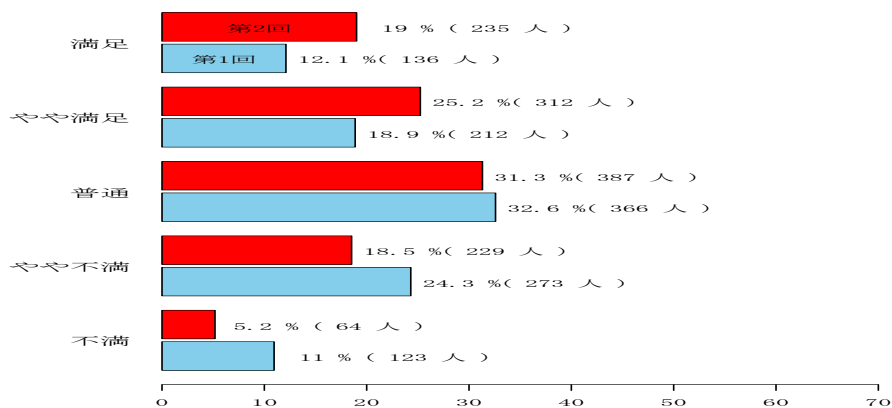
図 21: 学習のための施設 (教室、自習スペース等) の満足度



2.2.4 情報機器

情報機器の設備に対する評価では、肯定的評価が 44.2%、否定的評価が 23.7%である。第 1 回調査時の肯定的評価 31.0%、否定的評価 35.2%と比較して大きく改善している。

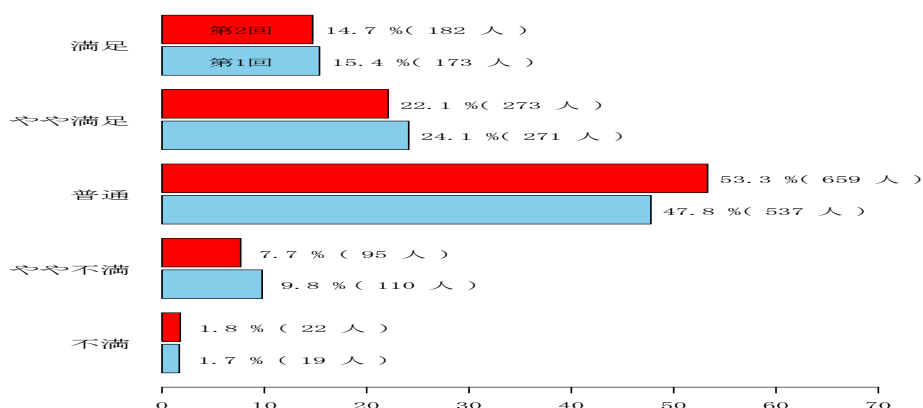
図 22: 情報機器等の設備の満足度



2.2.5 教員との交流

学習にかかわっている教員との交流の満足度を訊いた設問では、肯定的評価が36.8%、否定的評価が9.5%である。第1回調査時の肯定的評価39.5%、否定的評価11.5%と比較すると、両評価とも低下し、「普通」の回答に寄っている。

図 23: 教員との交流の満足度



2.3 個別活動(課外活動)

2.3.1 部活・サークル活動、ボランティア活動、語劇の状況

課外活動のうち、部活・サークル活動、ボランティア活動、語劇の参加状況を質問した結果は以下の通りである。図 24 左図の通り、何らかの課外活動に参加している学生の割合は62.3%(47.7%+14.6%)となっている。

参加している分野は、図 24 右図の通りである。「文化・芸術活動」の割合が最も高く(36.4%)、課外活動の参加目的としては図 25 に示されている通り、「学生生活を楽しむ」(46.1%)、「友人を得る」(32%)の割合が高くなっている。

図 24: 課外活動について

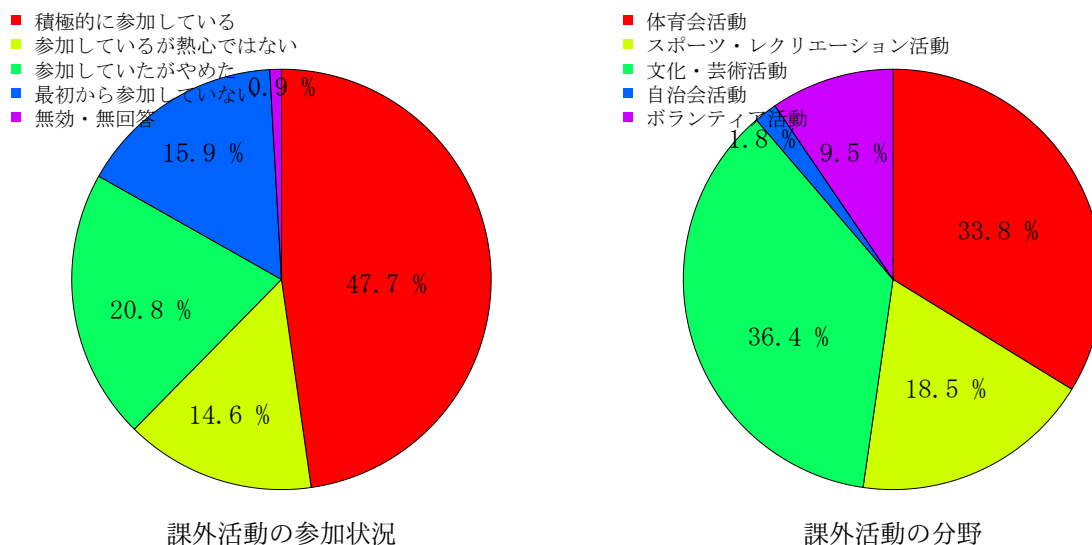
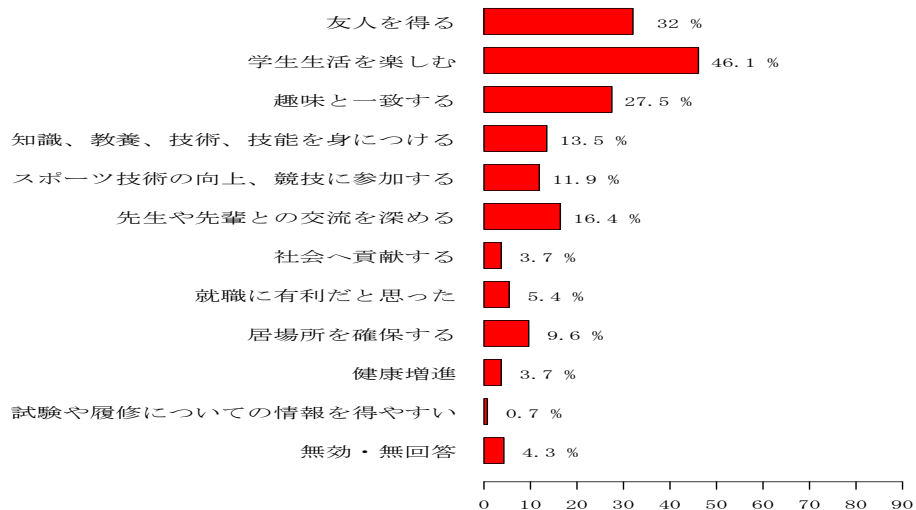


図 25: 課外活動の参加目的



注：比率は回収数 1236 に対するものである。質問は「3つまで選択可」の形で行っている。

2.3.2 ボランティア活動の状況

ボランティア活動に限った状況を見てみると、ボランティア活動の経験がある学生³は39.0%であり、第1回調査時の34.2%よりも割合が高くなっている(図26)。

ボランティア活動に関心のある学生⁴に対して、関心のある分野を質問した結果が図27である。割合の高い3項目は「外国人対象の国際支援」(47.2%)、「子どもの教育支援」(32.8%)、「災害支援・復興支援」(15.1%)となっている。

図26: 入学後のボランティア活動の参加状況

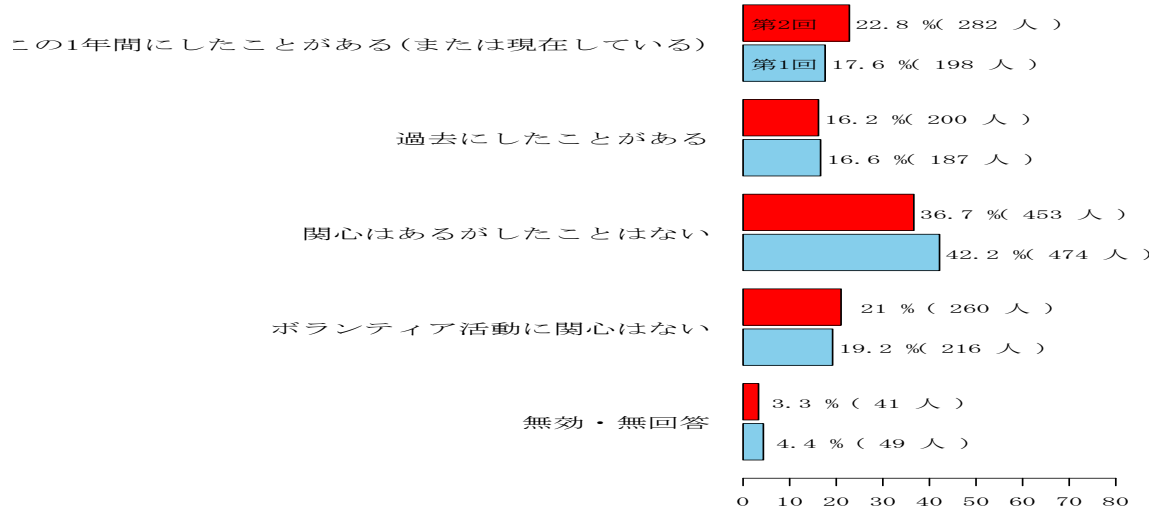
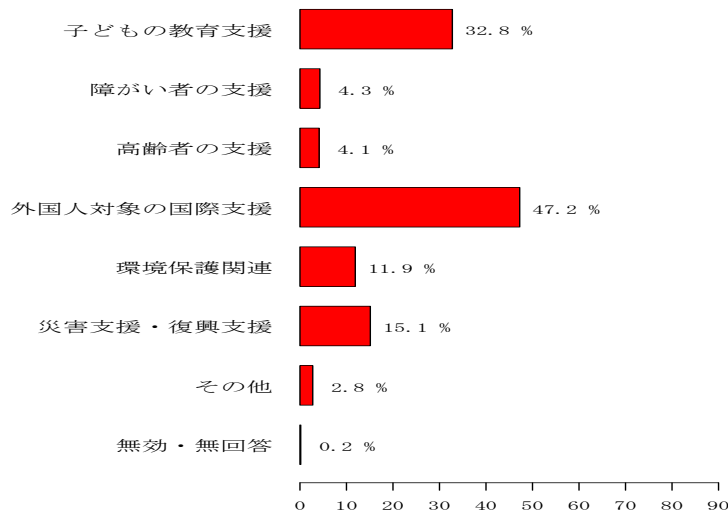


図27: ボランティア活動に関心のある分野



注: 比率は回収数1236に対するものである。質問は「2つまで選択可」の形で行っている。

³ 「この1年間にしたことがある(または現在している)」と「過去にしたことがある」の合計。

⁴ 質問(22)において「この1年間にしたことがある(または現在している)」、「過去にしたことがある」、「関心はあるがしたことはない」のいずれかに回答した学生を指す。

2.4 個別活動(留学)

2.4.1 留学の状況

留学の状況は、図 28、図 29 の通りである。「留学をしたことがある」が 31.3%、「在学中に留学を検討している」が 41.2%、「特に留学する予定がない」が 26.2%である。第 1 回調査時と比較すると「在学中に留学を検討している」割合が増加している。学年別推移では、1 年生の 80.1%が留学を検討している一方、4 年生で留学経験者は 67.2%である。この 4 年生での留学経験者比率は第 1 回調査時の結果 (57.3%) と比較して約 10%の上昇である。

「留学する予定がない」学生にその理由を訊いた結果が図 30 である。割合の高い順に「留学費用が高い」(26.9%)、「関心がない」(10.8%)、「4 年で卒業したかった」(14.9%)であった。この順位は第 1 回調査時と同様である。ただし、「留学費用が高い」(第 1 回調査時 30.4%→今回 26.9%)、「関心がない」(第 1 回調査時 13.6%→今回 10.8%)が第 1 回調査時よりも割合を下げているのに対し、「4 年で卒業したかった」(第 1 回調査時 13%→今回 14.9%)の割合は上がっている。

図 28: 留学状況

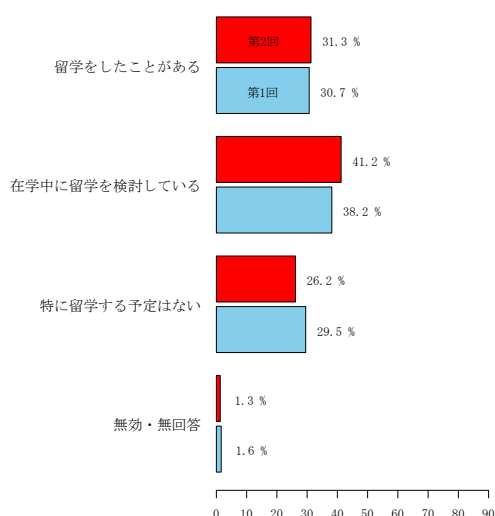


図 29: 学年別留学状況

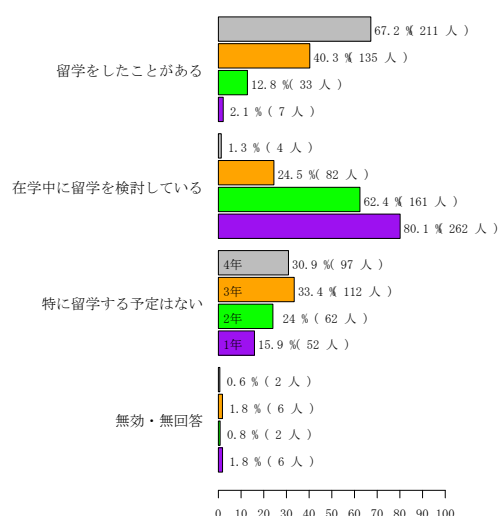
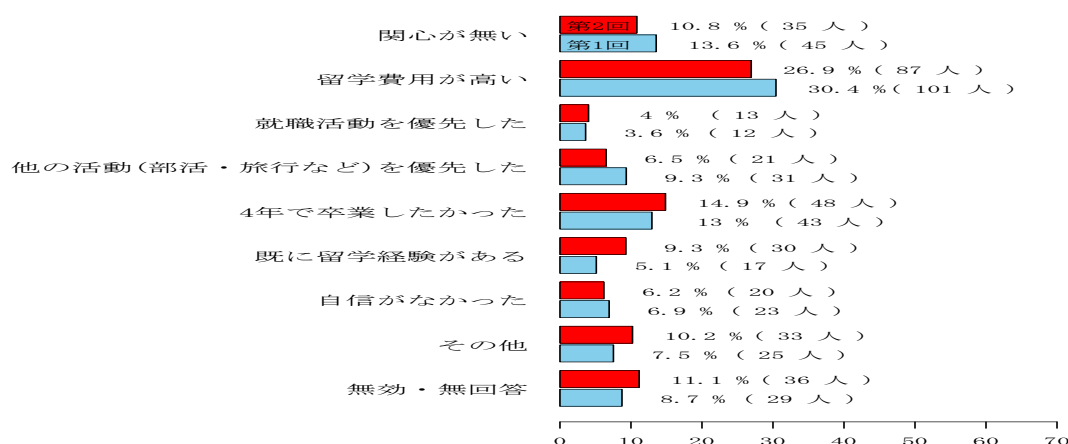


図 30: 留学を予定していない理由



注: 「留学状況」で「特に留学する予定はない」と回答した学生を対象にしている。

注: 第 1 回調査時にあった「授業日程の関係」の選択肢が今回はないため、それ以外の部分で比較を行っている。

2.4.2 留学の形態

「留学をしたことがある」、「留学を検討している」と回答した学生を対象に、留学の形態を質問した。結果は図 31 から図 35 の通りである。

まず、留学の期間についてである(図 31、図 32)。「留学をしたことがある」、「留学を検討している」のいずれの回答についても 6ヶ月～12ヶ月未満の割合が最も高くなっている。

次に留学の種類についての結果は図 33 の通りである。「本学派遣留学制度(交換留学、長期派遣留学、スペイン派遣留学、短期派遣留学)」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「休学して留学(4年生・2年生大学等の正規学部授業・語学コース)」(22.7%)、「休学して留学(語学学校)」(22.0%)となっている。

留学先については、図 34 の通り、英語圏が 6 割を超えており、留学内容を決めるにあたっての重要な要素としては、図 35 の通り、「留学費用」と「就職活動との関係」の割合が高くなっている。この点は第 1 回調査時と同様である。

図 31: 留学の期間(「留学をしたことがある」の回答者)

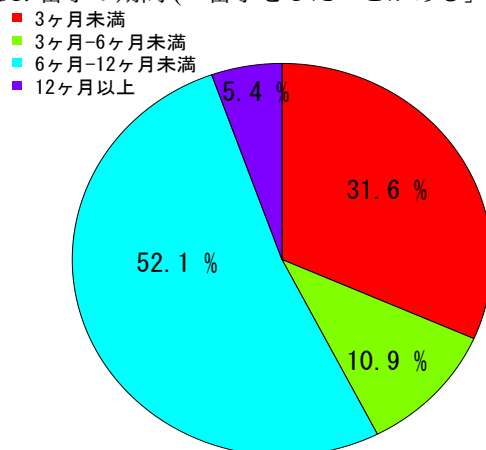


図 32: 留学の期間(「在学中に留学を検討している」の回答者)

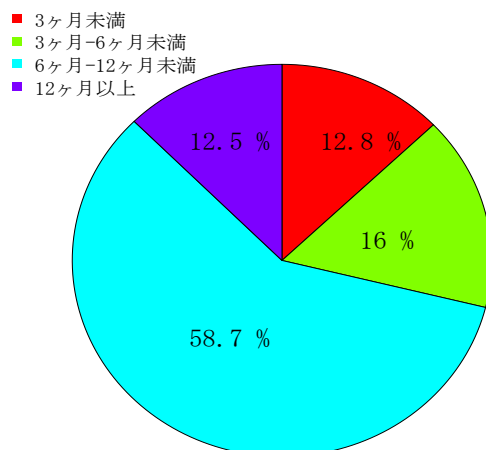


図 33: 留学の種類

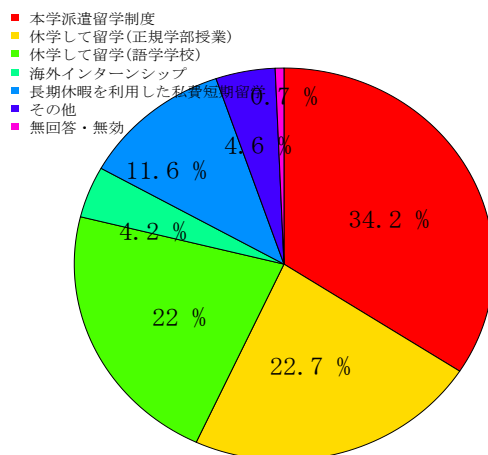


図 34: 「留学をしたことがある」と回答した人の留学先

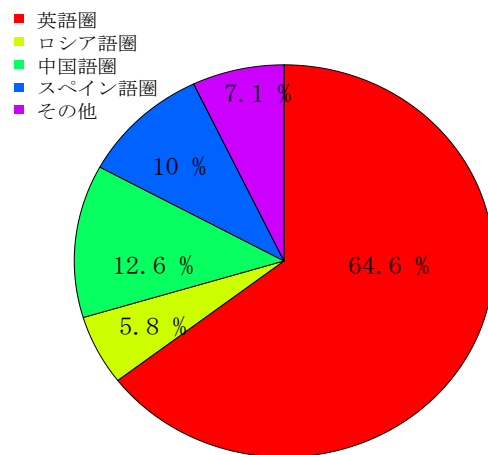
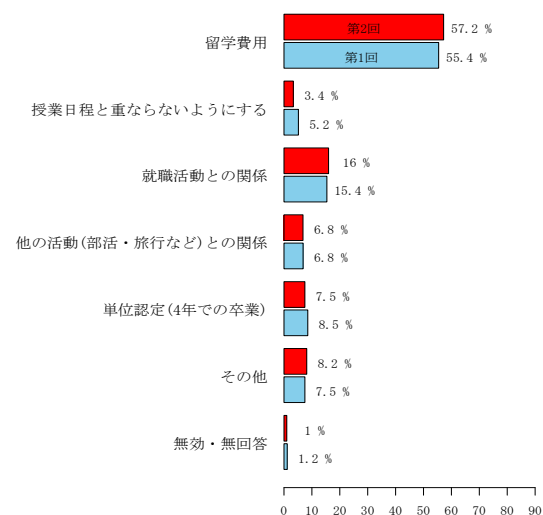


図 35: 留学内容を定めるにあたって最も重要な要素(全体)



2.5 個別活動 (TOEIC、就職活動について)

2.5.1 TOEIC

TOEIC の受験状況とその得点を質問した。「受けたことがある」と回答した人の比率は、1 年生 (45%)、2 年生 (69%)、3 年生 (69%)、4 年生 (87.3%) と増加傾向にある。特に、1 年生から 2 年生の間、3 年生から 4 年生の間に急激に上昇している (図 37)。第 1 回調査時と比較した場合、1 年生から 2 年生の間の急激な上昇は同様であるが、3 年生から 4 年生の間の上昇が今回は顕著である。

得点についての結果は、図 38 の通りである。学生全体の平均得点は第 1 回調査時と比べて約 10 点上昇している (746.2 点 → 756.8 点)。学年が上がるにつれて平均点が順調に上昇していることがみてとれる。

図 36: TOEIC 受験状況

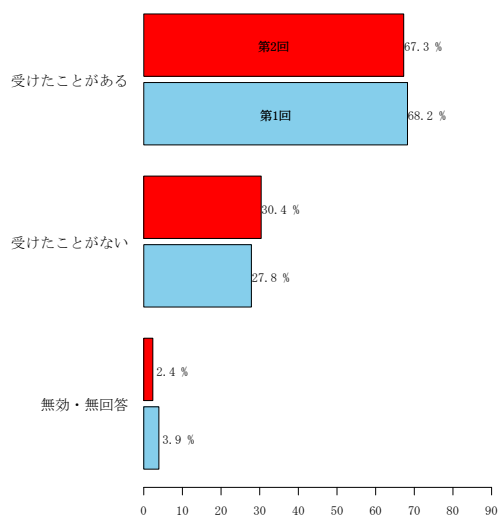


図 37: TOEIC 受験状況 (学年別)

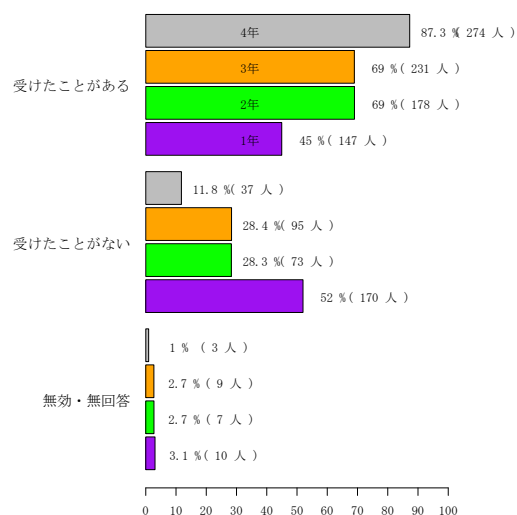
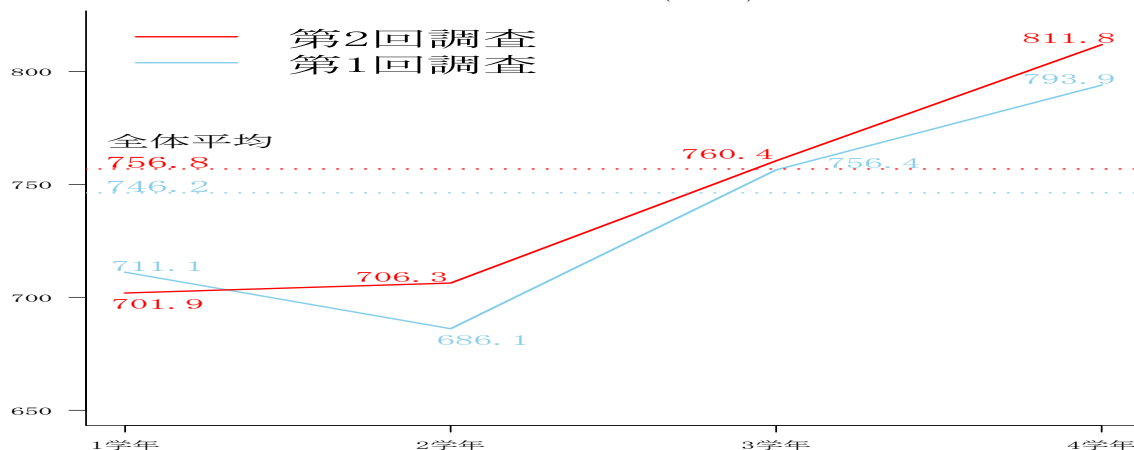


図 38: TOEIC 平均得点 (学年別)



2.5.2 1、2、3年生の卒業後に希望する進路

1、2、3年生に卒業後に希望する進路を聞いたところ、「就職」⁵が最も多く71.7%、「決まっていない」が19.5%、「国内の大学院に進学」が2.8%と続いている(図39)。就職(民間)、就職(その他)を回答した学生に対し、希望する業種を聞いた結果が図40、図41である。「旅行・教育・サービス」が33.3%、「メーカー」が30.1%、「報道・出版・情報・通信」が11.2%となっている。

学年別推移でみると、「旅行・教育・サービス」が学年を経るごとに減少傾向にあるのに対し、「メーカー」は増加傾向にある。この点は第1回調査時と同様である。

図 39: 卒業後に希望する進路

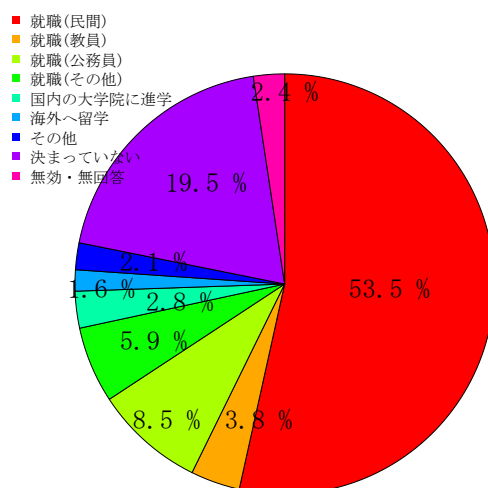


図 40: 民間希望就職先(1、2、3年)

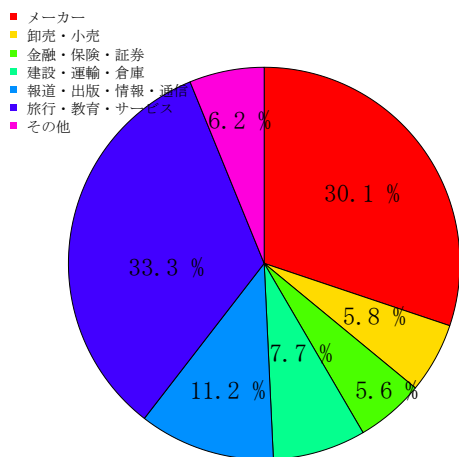
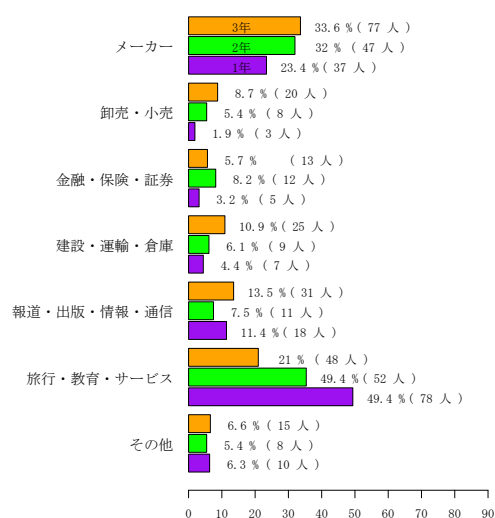


図 41: 民間希望就職先(学年別)



⁵就職(民間)、就職(教員)、就職(公務員)、就職(その他)の合計。

2.6 個別活動(悩み)

学生生活にかかわる「悩み」や「不安」の有無を質問している。「よく悩む」・「少し悩む」という回答が合計で49.3%あるのに対し、「あまり悩まない」、「全く悩まない」の合計は49.0%である。第1回調査時と比較すると、悩んでいる学生は減少している。相談相手は回答の多い順に、「友人」(53.5%)⁶、「相談しない」(20.1%)、「父母」(18.6%)であり、第1回調査時と同様である。

図 42: 悩みや不安の有無

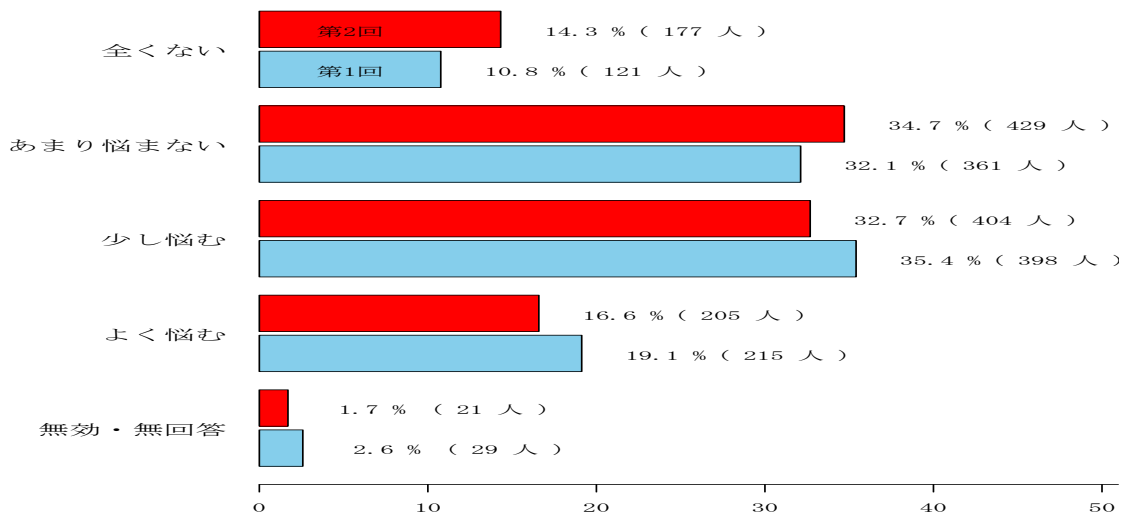
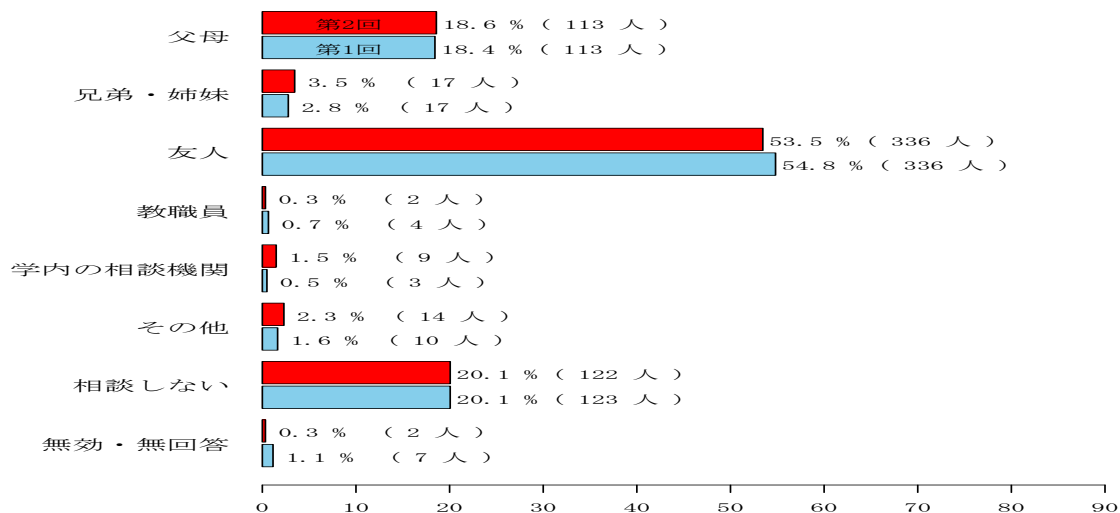


図 43: 悩みや不安の相談相手



⁶ 「友人」については、第1回調査時は「学内の友人」、「学外の友人」という2つの選択肢を設けていた。今回の比較にあたっては、それらの合算値を「友人」としている。

2.7 大学への要望・期待について

大学への要望・期待について質問した結果は図44の通りであり、「留学支援制度の充実」と「カリキュラムの改革」が求められていることは第1回調査時と同様である。一方、「情報機器等の学習面での施設環境の充実」の要望が第1回調査時と比較して減少している。

図44: 大学への要望・期待について

